

# 第1回世界ろう者卓球選手権大会報告書

## ①大会の概要（競技団体）

### 1) 大会名称

1st World Deaf Table Tennis Championships

（第1回世界ろう者卓球選手権大会）

### 2) 参加目標・目的に対する成果・評価および今後の課題

#### ○目標

・全種目（男女団体戦、男女シングルス、男女混合ダブルス）メダル獲得

・2009年9月の台北デフリンピックに向けての情報収集

#### ○成果・評価および今後の課題

・メダル獲得は女子団体が銀メダル、女子ダブルスが銅メダル、女子シングルスが銅メダルで合計3個でした。

・各国選手の実力をある程度把握することが出来たので2009年の台北デフリンピックまでに収集した情報を活かす。間違いなく各国の若手選手がどんどん伸びてきているので、もっと若手選手を育成する必要がある。特にメダルが取れなかった男子選手は長期計画に若手選手を育成する必要がある。

### 3) 大会期日（開会式、閉会式を含む）

2008年5月31日～6月8日

### 4) 渡航日程

2008年5月28日～6月10日

### 5) 大会主催・主管

主催：国際ろう者スポーツ委員会

主管：ブルガリアろう者スポーツ協会

### 6) 開催地（国名、都市名、会場名）

ブルガリア・ソフィア市 会場：WINTER PALACE OF SPORTS

### 7) 大会規模（参加国、参加選手、参加役員数など）

○参加国：27ヵ国

ベラルーシ、中国、台湾、クロアチア、チェコ共和国、デンマーク、イギリス、フィンランド、ドイツ、ガーナ、ハンガリー、イラン、日本、韓国、ラトビア、リトアニア、マケドニア、モルドバ、ポーランド、ロシア、スロバキア、スウェーデン、タイ、トルコ、ウクライナ、ベネズエラ、ブルガリア

○参加選手人：129人

○参加役員：約80人

## 8) 参加者名簿

### ○スタッフ

監督：佐藤 昭久（大阪）

コーチ：西村 卓二（千葉）

トレーナー：今西 伸行（大阪）

手話通訳者：豊島 絵美子（大阪）

### ○男子選手

主将：青山 修（千葉）

鈴木 重治（東京）

有馬 歆生（神奈川）

望月 翔太（神奈川）

### ○女子選手

主将：小浜 京子（大阪）

稲葉 千寿子（愛知）

大久保 舞（東京）

上田 萌（東京）

## 9) 参加者成績

### ○団体戦

男子…6位

女子…銀メダル

### ○男子ダブルス

青山・望月組…ベスト8

有馬・鈴木組…ベスト16

### ○女子ダブルス

小浜・上田組…銅メダル

大久保・稲葉組…1回戦敗退

### ○混合ダブルス

望月・上田組…ベスト8

青山・小浜組…ベスト16

鈴木・大久保組…2回戦敗退

有馬・稲葉組…1回戦敗退

### ○男子シングルス

青山選手…ベスト16

有馬選手…ベスト32

望月選手…1回戦敗退

鈴木選手…予選敗退

### ○女子シングルス

上田選手…銅メダル

稲葉選手…4位

小浜選手…ベスト8

大久保選手…ベスト8

#### 10) 特記事項 (大会の特徴)

- ・この大会成績は世界ろう者卓球ランキングに査定されるのであり、そのランクが来年の台北デフリンピックでのドロー (組み合わせ) に反映される。
- ・各国の若手選手がどんどん出てきている。
- ・メルボルンデフリンピック時に出場した若手選手が伸びている。
- ・日本では考えられない程、タイムテーブル変更がよくあった。選手がいつでも試合出来るような状態が必要だった。

## ②監督・競技団体報告

【監督: 佐藤 昭久 (大阪)】

#### 1) 選手の選考について

2月11日の日本ろうあ者卓球協会強化委員会にて選考の話し合いが行われ、実力順で決めました。

##### ○男子選手

- ・青山選手 : 台北デフリンピック日本代表選手内定  
台北デフリンピック日本代表選手選考会 1位  
第30回全国ろうあ者卓球選手権大会 3位
- ・鈴木選手 : 台北デフリンピック日本代表選手選考会 3位  
第30回全国ろうあ者卓球選手権大会 6位
- ・有馬選手 : 台北デフリンピック日本代表選手選考会 2位  
第30回全国ろうあ者卓球選手権大会 2位
- ・望月選手 : 台北デフリンピック日本代表選手内定  
第30回全国ろうあ者卓球選手権大会 1位

##### ○女子選手

- ・小浜選手 : 台北デフリンピック日本代表選手選考会 3位  
第30回全国ろうあ者卓球選手権大会 3位
- ・稲葉選手 : 台北デフリンピック日本代表選手選考会 4位  
第30回全国ろうあ者卓球選手権大会 4位
- ・大久保選手 : 台北デフリンピック日本代表選手選考会 2位  
第30回全国ろうあ者卓球選手権大会 5位
- ・上田選手 : 台北デフリンピック日本代表選手内定  
第30回全国ろうあ者卓球選手権大会 1位

※台北デフリンピック日本代表選手選考会

日時: 2008年2月10日

会場: 横須賀市南体育館 (神奈川県横須賀市)

※第30回全国ろうあ者卓球選手権大会

日時: 2007年12月22日～23日

会場: アミティ舞洲 (大阪府大阪市)

※両大会とも日本ろうあ者卓球協会主催の大会

#### 2) 参加目的に対する成果・評価および今後の課題

第1回と言う事と初の監督もあって、具体的には参加国選手への対策と選手個人々の総合的な力量・チーム力を掴めないまま大会に臨むこととなった。2回の強化合宿練習の中で、戦型・得意技は見えたとの事態が窮した時の、逆転のきっかけを掴む技や併せ技、そして離れ技の掌握までには至らなかった。

やはり帯同する指導陣は、選手団の掲げた「輝くメダル獲得」のためにも、従前の準備に時間を多く掛け得るタイミングとそれなりの立場の実績者を登用すべきであろう。今大会を総じて見たとき、選手各人は良く闘ったと思う。近年、欧州勢が進境著しいと聞き及んではいたが、中国もろうあ者強化に高い関心を寄せている。各諸国の関心の高さや急速な力の付け方から、日本も後に掲げる施策は急務である。

現地入りしてからの選手団は、大会までの練習への取り組みも当日の試合に臨むにあたっての準備も入念で、大会期間中の気力もうかがえ、スタミナも十分であった。また、チーム一丸となつての応援・整然とした行動は高く評価したい。しかし、今後の強化対策は組織的にも人的にも資金的にも難しい中であつて1歩でも2歩でも進めて行かねばならぬ急務さを強く感じた。また、世界に伍して行くにはもっとレベルの高い競技者(学生・社会人・健常者を問わず)と交流を多くすることである。決して「井の中の蛙」で有ってはならない。

#### 3) 成績とその評価

[成績]

##### ○男子団体戦

- 1位 台湾
- 2位 ドイツ
- 3位 中国
- 4位 ウクライナ

- 5位 ロシア
- 6位 日本
- 7位 ポーランド
- 8位 トルコ

○女子団体戦

- 1位 中国
- 2位 日本
- 3位 ウクライナ
- 4位 韓国
- 5位 ドイツ
- 6位 ポーランド
- 7位 ロシア
- 8位 トルコ

○男子シングルス

- 1位 Wen (台湾)
- 2位 Zakladnyy (ウクライナ)
- 3位 Mechau (ドイツ)
- 4位 Yang (台湾)

青山 修 (ベスト16、  
シード権のため予選リーグなし)  
有馬 歆生 (ベスト32、  
予選リーグ1位：3勝0敗)  
望月 翔太 (決勝トーナメント1回戦敗退  
予選リーグ1位：3勝0敗)  
鈴木 重治 (予選リーグ敗退、  
予選リーグ3位：1勝2敗)

○女子シングルス

- 1位 Shi (中国)
- 2位 Lin (中国)
- 3位 上田 萌 (予選リーグ1位：3勝0敗)
- 4位 稲葉 千寿子 (予選リーグ1位：3勝0敗)

小浜 京子 (ベスト8、  
シード権のため予選リーグなし)  
大久保 舞 (ベスト8、  
予選リーグ2位：2勝1敗)

○男子ダブルス

- 1位 Zakladnyy / Gnatiuk (ウクライナ)
- 2位 Wen / Yang (台湾)
- 3位 Mechan / Bahr (ドイツ)
- 4位 Rucpic / Baron (ドイツ)

青山 修 / 望月 翔太 (ベスト8)  
鈴木 重治 / 有馬 歆生 (ベスト16)

○女子ダブルス

- 1位 Jiang / Huang (中国)
- 2位 Shi / Lin (中国)
- 3位 小浜 京子 / 上田 萌
- 4位 Ji Yeun / Yun Ja (韓国)  
稲葉 千寿子 / 大久保 舞 (1回戦敗退)

○混合ダブルス

- 1位 Wang / Shi (中国)
- 2位 Zakladnyy / Vasylyeva (ウクライナ)
- 3位 Mechau / Hein (ドイツ)
- 4位 Kyung Hoon / Yun Sol (韓国)  
望月 翔太 / 上田 萌 (ベスト8)  
青山 修 / 小浜 京子 (ベスト16)  
鈴木 重治 / 大久保 舞 (2回戦敗退)  
有馬 歆生 / 稲葉 千寿子 (1回戦敗退)

[評 価]

戦績結果を鑑みた時、女子については総体的に良く頑張ったと思う……が、力量的にはシングルス・ダブルス共に優勝出来得たかと思料する。ご過忙の中にも拘不、現地まで足を運ばれコーチをして頂けた西村卓二氏の思いにも忸怩たるものが内在していると考えられる。

女子団体については、チーム一丸となつての総力戦の結果は惜敗の一言しかない！能く頑張った！

混合ダブルスおよび男子種目については、欧州勢の総合力が高く、両ハンドの技術の差が歴然としていた為、対峙しても相当な苦戦を強いられ、負ける時は為す術が無いほどの完敗であった。正面からのがっぶり四つの対峙ではなく、独特の技を駆使しての戦術が必要不可欠と思われた。

4) スタッフ体制とその内容

監督：進行チェック、スケジュールなどの確認、選手への技術指導や試合アドバイス、選手と練習パートナー、TD会議出席

コーチ：監督の補助、進行チェック、スケジュールなどの確認、選手への技術指導や試合アドバイス、選手と練習パートナー

トレーナー：全体管理、進行チェック、スケジュールなどの確認、記録のまとめ、写真撮影、飲食物の手配、

## T D会議出席、諸連絡

手話通訳者：監督・コーチと選手間のコミュニケーションの保証、T D会議出席

### 5) 競技運営

対内外の各種大会に参戦している小生の目には、大会実行委員会がお粗末に映った。一言で言えば悪すぎたに終始する。準備も進行・運営の手順も、チーム代表会議も重要な対戦、組合せ会議も、要領も得ずドローの方法に納得も行かないままに、只々時間ばかりがかかった。タイムテーブルも直前まで分からないに等しく、突然張り出されたり張り替えられたりした。

日本の選手は「何があっても直ぐに対応できるように」との団の指示とおりに常に会場内で待機し、試合への準備（練習とウォーミングアップ）に余念が無かった。

また、競技コートのバウンドにばらつきがあり、フロアもアイススケートリンク（コンクリート性）上にリノリュームまたはレジン性のシートを引いたもので、平でなく動き難いものであった。競技場全体を考えても、ボールが見やすいとは思えず、照度もばらつきがあったかと思う！只助けられたのは、競技エリアが広がった事と、競技審判がハツキリしていたことである。

日本国内の大会競技場と大きく異にする中で、選手各人は会場への送迎バスの遅れや試合直前の変更にも動ずることなく、不平も言わず頑張り通した事を戦績とは別に、高く評価したい！

### 6) 大会参加までの準備状況

富田会長（日本ろうあ者卓球協会）から頂いた過去1・2年のろうあ者卓球協会の通信・機関紙・大会記録から、代表選手の実績と経験の豊富さを知り得た。常にランキングの上位に位置付けられ、少ない練習時間を見つけての努力や、鍛えているのであろうランニング等のトレーニングもうかがい知れたかと思う。

合宿練習での動きや、時間を惜しんだ取り組む姿勢をみると、その事実が如実なものとなった。トップ中の選手数人が、事情が許さないのか、考えるところあつてのことか（15日間の勤務休暇）派遣選考会に出ていなかった事は、惜しまれる。次回は何らかの特典や組織での働きかけの努力を考えるべきであろう。

実力で選出された選手は、前記の通り意識もプレーも遜色のない自覚と誇り高い一人一人であった。只、せっかく仕事と時間を割き、お金と人をかけて行なう強化合宿練習であるので、一回が2日間という短期間の中で成果を挙げねばならないので、日ごろの練習不足を取り戻し、調子を上げるに留まるやり方ではなく、世界大会への自信に繋がるか、または弾みになるような企画ができなかったのは重要な反省点である。次大会を間近に控えた時ではなく、世界の実情を鑑みた時、少なくとも中期的な取り組みビジョンを持って、トレーナーの物色・要請・派遣依頼などを実践すべきであろうと強く念じる。

小生の幾多の国際大会からの経験から予測し、協力・推進できなかったことに忸怩たる思いである。

### 7) 反省・まとめなど

最後に、あまり口にはしたくない話題でもあるが、避けては通れないので触れることにする。

①ろうあ者卓球大会と銘打つ以上、資格を明言化して聴覚の検査等を、大会組織委員会に実施させるべきである。忠実に厳守している日本に比べ、数カ国が勝利至上主義そのままあまりにも露骨な健常者の起用ではなかったか？

②組み合わせ抽選の方法・試合中だけではなく、日本に対する感情の悪さを強く感じましたが、日本選手の堂々としたプレー、勝っている時も、そして負けている時も懸命な爽やかな闘いぶりに大会が進むにつれて、各国の多くの選手や役員・大会を支えているブルガリアの人々が日本の選手の応援に傾いてきた事実を、終わりに声を大にして話しておきたい！

### 8) 記録写真



日本代表選手団

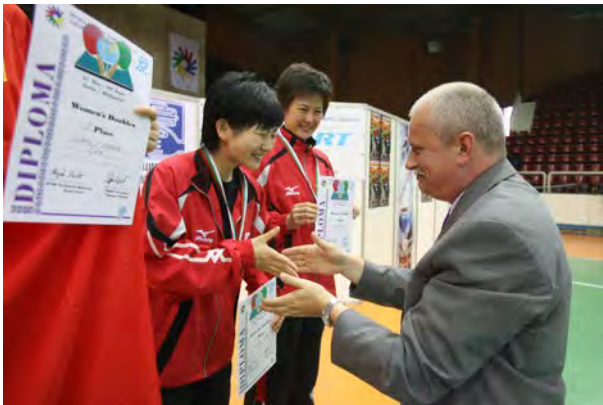




女子団体表彰式



女子ダブルス（小浜&上田組）



女子ダブルス表彰式



試合中の有馬選手



女子シングルス表彰式



女子ダブルス（稲葉&大久保組）



試合中のアドバイス（佐藤監督と青山選手と豊島手話通訳）



試合中の望月選手

### ③役員報告（トレーナー、手話通訳者）

【トレーナー：今西 伸行（大阪）】

#### 1) 参加目標・目的や役割に対する達成度・評価と今後の課題

一番大きな目標だったのは、日本代表選手の力を100%発揮出来るような環境作りなどをサポートして、全種目メダル獲得するという目標でした。

ブルガリアに到着して実行委員と打ち合わせをした日の翌日、次々の日に練習出来る場所を確保したいとお願いした結果、他の一般が使用している卓球場まで案内してもらって練習が出来て、選手にとってはいい調整が出来た。

大会中でも昼食を確保することが出来てよかった。会場内は軽食など売店があったけど、毎日同じ内容にするわけにもいかない。幸いに会場外の付近に店が並んでいて、そこで毎日バナナ、フルーツ、パンなど昼食や飲料などを買って来たり、選手らとレストランへ食べに行ったりするなど昼食を確保出来た。

パソコンを持参して大会の為に作成したブログにその日の試合結果を載せて、応援している日本にすぐ伝えられたことがよかった。日本からも励みになる応援のコメントがよせられ、選手たちの気持ちが引き締まっただろう。

今後の課題として一番ポイントは、スタッフ体制を見直さなければならないと思いました。私見として一番ベストなスタッフ体制は、男子監督、女子監督、男子選手用スタッフ、女子選手用スタッフ、練習相手出来るコーチ2人、手話通訳者2人だと思います。

今大会では男子選手の試合時間、女子選手の試合時間が違った日（例：男子は朝から、女子は夕方から）もあり、男女選手とも同じ時間に行動をすると体力的や精神的に疲れるし、ホテルでゆっくり休んだ方が効果的なので、それぞれのスタッフを置いた方がいいと思いました。また、手話通訳者も男女試合相互で1日中手話通訳していたので、休む暇もなかった。特に同時試合だった時は一番困りました。サッカーやバレーボールのような団体競技と違って個人競技は同時試合がたくさん発生すると考えられることを頭に入れる必要があると思いました。

#### 2) 役割の内容

大会出発前までメーリングリストを利用して、日本代表選手団に強化合宿のこと、大会の情報、ブルガリアの注意、聴力検査のことなどを連絡しました。また、大会の申し込み手

続き、旅行会社へ問い合わせ、卓球ボールの手配など実務作業もしたりしました。

練習時間、試合時間、バス送迎時間、食事時間（朝昼晩）などを確認してから、監督と相談して1日のスケジュールを立てて選手に連絡したりしました。また選手の体調も確認しました。

出席したTD会議の内容は試合組み合わせの確認や試合上の注意確認でした。国際手話が中心でしたがなんとかつかめることができました。わからなかった時は日本手話に近い台湾の人に聞いたりしました。

試合中は試合結果の詳細記録、選手の写真を撮影、試合時間の確認などしてきました。特に日本では考えられないぐらい当日に試合時間を変更することがたびたびあり、本部へ行って試合時間を確認したりして、時間変更したことを選手に伝えたりすることが多かった。日本選手が試合待機している間に会場の外にある店へ行って、軽食や昼食や飲料を買ったりしてきました。またレストランを探して昼食内容を確認して選手をレストランまで連れて昼食をとりました。

#### 3) 反省・まとめなど

今回の大会は第1回ということでもあり、どんな大会か、イメージが出来なかったので不安もありましたが、いざとってみると日本代表選手団は行動などがバラバラでなく一丸となったおかげで、スムーズに過ごせたと思っている。

参加各国の選手はほとんど若手でメルボルンデフリンピック時に出場した選手があの時よりも力が伸びて来たり、また、突如若手選手が出てきたり、日本といたら中学生という14歳の選手もいました。過去と比べたら各国のレベルが上がってきて、これからもまだまだレベルが上がることは間違いないだろう。

日本代表選手の中に国内大会は強くても国際試合の経験のなさで負けた選手もいました。特にヨーロッパの選手は日本にいないタイプの選手がゴロゴロといるので、もっと外国へ行って国際試合の経験を積む必要がある。

2009年の台北デフリンピック向けだけでなく、第2回世界ろう者選手権大会、2013年のデフリンピック、アジア大会など国際大会に目を向けて、長期計画的な選手の育成、早い内のスタッフ決定、資金作りなどに取り組まなければならないと痛感しました。

最後に日本代表選手は最後まであきらめないという粘り強

さを見せつけ、各国に驚かせたことを一番評価したい。

【手話通訳者：豊島 絵美子（大阪）】

#### 1) 役割の内容

今回は、日本選手団の健聴者の監督・コーチと聴覚障害選手・スタッフとのコミュニケーション保障をすることが、第一の役割でした。これは、単に音声日本語～手話に置き換えるだけでなく、聴覚障害者にとってわかりやすい説明の仕方など、監督・コーチと相談して進めていくことも含まれています。

また、それ以外に、スタッフが一人しかいないためそのフォローや、英語が必要な時（日本～現地までの移動中、ホテル、街中など）にも通訳を行うこともありました。本来現地では国際手話のできる方がいるはずですが、今回の担当者（健聴者）は国際手話よりも音声英語の方がスムーズにできるようで、日本選手団のスタッフと話す際にも通訳（音声英語～日本語）が必要でした。しかし、これは簡単な会話程度しかできない私の英語レベルでは、荷が重いことでした。

試合会場では、補聴器を付けた難聴のスタッフが現地の大会審判団とのコミュニケーションを保障してくれ（国際手話～ブルガリア語）、非常に助かりました。

前半の団体戦では、男子の試合・女子の試合が交互に行われ、休む間もなく次々とベンチ入りし、更に、空き時間には監督・コーチとスタッフで内容の濃い話が1時間以上続くこともあり、その間の通訳も一人でこなさねばならず、心身に限界を感じる時がありました。

後半の個人戦になってからは、選手のニーズに合わせてベンチ入りをするようにしました。これは、日本選手の試合が同時に始まり、物理的に不可能であったことがきっかけでした。通訳がベンチ入りしない試合は、聴覚障害選手がアドバイスに入る場合と監督・コーチとは慣れているから口型の読み取りができるという場合（筆談も交えて）がありました。

#### 2) 今後の課題、反省・まとめなど

今後、日本選手団が国際大会で好成績をあげるためには、手話通訳者の立場から見て次の課題があると考えます。

1. スタッフや選手が国際手話や英語（筆談）の力をつけること。
2. 健聴者が英語に堪能であること。
3. 手話通訳者が競技の専門的な話に全てついていけるだ

けの知識と手話表現力があること。

#### 4. 健聴者監督・コーチも簡単な手話ができること。

今回のレベルでは不可能というわけではありませんが、より望ましいという意味です。しかしながら、現在の環境（職場における休暇が確保しにくい・或いは休業中の補償がない）では、なかなか担い手がないのが現状ではないかと思いません。

今大会では、この人数でうまくまわっていたのは、選手も主将を中心によくまとまっており、スタッフや監督・コーチも含めてチームワークが非常に良かったことがその一番の理由だったと思います。

### ④選手報告（各選手）

【男子選手（主将）：青山 修（千葉）】

#### 1) 参加目標・目的に対する達成度・評価と今後の課題

目標は、「チームワーク全員が一丸となり勝ち進みたい」という抱負。

来年の2009年9月に台湾・台北で日本代表としてろう者による台北デフリンピックの卓球競技に4大会連続出場となります。「目標はメダル獲得。チームワークで勝ち進みたい」と、世界の大舞台での飛躍を誓います。

小学5年から卓球を始めました。高校時代は社会人になっても練習を欠かさず、今年2月に横須賀で行われた日本代表選考大会に出場して優勝。日本代表に選ばれました。「高校の卓球部では休みなく練習し、卓球の厳しさとおもしろさを教えてもらった」と、感謝の言葉を忘れません。

今度ブルガリアでの世界ろう者卓球選手権大会には、27か国出場となりました。シングルスとダブルスと団体戦に出場。「スタミナには自信があるので、相手との駆け引きで勝負できる。シングルスを戦いたい」と目指して頑張ります。

大会を控え、平日には仕事が終わってからナイターで2時間ほど汗を流し、週末は東京の卓球クラブ・大学で最後の調整をしてきました。国際大会では、2週間前から風邪薬などは避け、コーヒー、酒も我慢しています。「万全な状態で大会に臨みたい」と表情を引き締めて頑張っていきたいと思いません。

結果は、男子団体戦6位。男子個人戦ベスト16。男子ダブルス戦ベスト8。混合ダブルス戦ベスト16。非常に残念

な成績に終わり、応援してくれた皆様の期待に答えられなくて悔しいです。

現地での本大会に行って大変驚いたのは、各国の選手達のレベルが一気に上がったことです。でも日本代表として今までの練習した分を精一杯出し切りました。精神的、肉体的にも思い通りに戦ってきましたが、あと一歩及ばずメダル獲得ができませんでした。

## 2) 反省・まとめなど

前回と較べてこんなに差がつくとは思いませんでした。他の国々が強くなりすぎたのです。選手達がセミプロ生活とか、健聴者に混じってナショナルチームに選抜された実力の持ち主と話聞きましたし、全日本トップクラス並みのレベルの選手だと、すごく痛感しました。

日本はこのままでいくと、5年～8年は遅れるという感じですか。これからは最初からやり直します。ゼロからスタートの気持ちで選手個々のレベルを上げるためにもハングリー精神を養うなり、自分に対しても厳しい試練に取り組まないといけないのでは、と強く感じました。

いろいろな意味で台北デフリンピックまでの1年間、反省しながらモットーは、仕事と卓球に両立して精一杯頑張りたいと思います。

### 【男子選手：鈴木 重治（東京）】

#### 1) 参加目標・目的に対する達成度・評価と今後の課題

日本ではニッター球使用が多い。ブルガリア大会ではニッター球ではなくティバーでした。私は初めてで、やわらかく弾まないボールに慣れるまで時間がかかり、慣れたと思ったら、世界大会の生活、自分のペースがちょっとずれてしまったせいか、フォームがおかしくなっていました。調子が出ないまま力が出し切れず終わってしまい、それが悔しかったです。どんな時でも自分のペースを守ること等乗り越えなければ勝てないと思いました。

外国選手の癖等や失敗談も入れて後輩達に言い伝えて行く。

ブルガリア大会が始まるまでの3日間ブルガリアの雰囲気慣れるのは良かったけれども、練習時間がとても短かった。せめて2～3時間にしてほしいと思いました

## 2) 反省・まとめなど

### 監督について

監督が決まってから、世界大会まで接触する日が本当に短かった。そのために選手の技術、レベルの把握ができなかったような気がしました。

これからは一年二年とは言えないかわからないが、なるべく早く監督やコーチを決めて合同練習、合宿、あるいは選手が他の試合を観戦しながら特徴や癖等を把握してもらいたいと思います。誰かの指示がなくても何かテーマとか目標を決めて日々練習に励んでいく必要があると思う。

### 【男子選手：有馬 敏生（神奈川）】

#### 1) 参加目標・目的に対する達成度・評価と今後の課題

参加目標としては、①団体戦でたくさん勝ってメダルを獲得すること。②個人戦ベスト16以上へ行くこと。

①団体戦ではほとんど3番手として試合に出て、どれも厳しい試合であったが、接戦を制し6回全て勝つことが出来た。これは自分にとって大きな自信につながった。しかしながらベスト8でウクライナに2-3と負けたため、メダル獲得にならなかった。

②個人戦では予選リーグ3人と対戦し、全勝で1位。決勝トーナメント1回戦も突破出来た。ベスト32（2回戦）で、ロシアの選手に対戦し、負けた。そのロシアの選手は団体戦で補欠として試合に出ていなく、ダブルスで当たって勝っている。そのため油断が生じたかもしれないが、不用意に対応したのが非常にいけなかった。

## 2) 反省・まとめなど

デフリンピック、次回の世界大会に出られたとした話ですが、団体戦で1、2番手としてたくさん勝つために、より実力をつけて国内大会でトップになることだと思います。

また、相手が強い弱いに関係なく、試合開始前に十分作戦を練るなど準備しておくことが大事だと思いました。

### 【男子選手：望月 翔太（神奈川）】

#### 1) 参加目標・目的に対する達成度・評価と今後の課題

○参加目標・・・

前回のデフリンピックでは一個もメダルが取れなかったもので、とにかくメダルを取ってやるという気持ちで臨みま



した。

自分のプレーがどれだけ通用できるか、または試合を通してさまざまな課題を見つけられるように自分のプレーを思い切り出すことを心がけました。

#### ○目的に対する達成度

今回の結果として男子はメダル一個も取れずに終わってしまい、女子は団体、ダブルス、個人戦もメダルを獲得できていたので、その状況を考えると自分自身にとって今まで経験したことないくらい大変良き残りの大会でした。

しかし、結果としてはあまり思い通りに行かなかったけれども、大会を通して世界各国の選手達と試合をする中で、自分のどういったプレーが通用できるか、またはどのような点を改善していったらいいのか、これからやらなければならないことなど、監督からの貴重なアドバイスも含め、私の課題点をはっきり見つけたので大変良い勉強になりました。このように今回の大会を通して、世界でしか味わえないという、さまざまなものを得ることができたので、次の世界大会に向けてどんどん自分の課題点を改善していかなければならないと実感しています。

#### ○評価と今後の課題

私がこれからの課題について感じたことは世界で勝つためには日本的なスタイルを創ることです。初めて外国の選手と沢山試合しましたが、外国の選手は日本にはない独特なパワーがあり、我々日本の選手とは完全に骨格が違います。だからこそ、外国選手のようなプレーを真似る必要はないと思いますし、外国選手がほとんど使っていないプレーを私達が使ったらいいと思います。例えば、海外の選手にパワーはあるが敏捷力はなく、日本人は敏捷力がかなりあるので、その長所を使ったプレーをしていけばいいと思います。サッカーでもオシムジャパンは世界で勝つために日本的なサッカーを作ろうとしていました。バレーも柳本ジャパンは日本人独特の敏捷力を使ったコンビバレーで世界に匹敵しています。現在はどのスポーツでもパワーの時代になってきています。ですから、我々としても外国選手が苦手とするボールであったり、どんなプレーを仕掛けたら外国選手は対応できないのかなどをより良く考える必要があると思います。ですから、私はそのポイントも考慮していきながら世界で勝つためにとことん自分的な卓球を作っていくことを目的に精進していきます。

#### 2) 反省・まとめなど

上記でも述べたように、自分としては思い通りにならない結果になりましたが、その反面、大変良い経験となった大会でした。私は今回の大会の中で得たものを忘れずにそれを自分のものにしていきたく、さらに世界で勝ちたいと思えるようになりました。

まだまだ日本はこれからやれると確信していますし、まだまだ未熟な面がたくさんありますので少しずつ改善していけるように今まで以上にもっと努力していかなければならないと思います。

皆さんこれからもご応援どうぞよろしくお願い致します。

#### 【女子選手（主将）：小浜 京子（大阪）】

##### 1) 参加目標・目的に対する達成度・評価と今後の課題

目標は「キャプテンとしてチームをまとめていくことと、思い切って自分のプレーが出来るように挑戦する気持ちで、チームワークとして日の丸を背負ってメダルを獲得していきたい」ということです。

私の父親の影響で中学1年から卓球を始めました。社会人になって初めて「ろうの世界」に入り、初めて出場した国際舞台、アジア太平洋ろうあ者卓球大会（1996年、マレーシア）でいきなり4冠王を達成。また、第18回世界ろう者競技大会（1997年、デンマーク）で3冠王、第19回デフリンピック（2001年、イタリア）で3冠王、第20回デフリンピック（2005年、オーストラリア）で銀メダル2個・銅メダル1個獲得した経験があります。

ブルガリアで開かれる第1回世界ろう者卓球選手権大会には、団体戦・女子ダブルス・混合ダブルス・シングルの4種目で出場となりました。その大会のために、平日には仕事後1～2時間ぐらい自主トレをしたり、(社)大阪聴力障害者協会卓球部の先輩と一緒に色んな基本練習をして頑張ってきました。ブルガリアでその経験を思いっきり出し切りたいと思います。

結果は、女子団体戦2位（銀メダル獲得）。女子ダブルス3位（銅メダル獲得）。混合ダブルスベスト16。女子シングルスベスト8。

本大会に行って一番驚いたのは、各国の若手選手達はかなりレベルが上がってきたことです。日本代表としてこれまでの練習してきた分を精一杯出し切ることが出来ました。全体

的に残念な結果になってしまいましたが、世界のトップに追いつくにはもっと練習をしなければならないと痛感しました。

## 2) 反省・まとめなど

初めて第1回世界ろう者卓球選手権大会に出場して想像以上に凄く上手い選手ばかりで、これが世界から若手選手が沢山集まったトップメンバーだなぁと改めて感じました。

試合ではなく、練習だと思いながら力のある限り、自分のプレーを出し切りました。やはり、この世界は日本とは全く違う手強い選手でした。混合ダブルスや女子シングルスでも最終マッチに惜しくも接戦で負けたのがほとんどで、とても悔しい思いをし、あの時はサーブをこう出せばとか、回転をもっとかかるようにすれば良かったとか、色々と考えてしまいました。

前回と比べてこんなに差がつくとは思いませんでした。ヨーロッパよりアジア（中国・韓国・台湾）の選手達が強くなりすぎたのです。アマ並みのプレーで、魅力があり見とれてしまう程でした。

今回は日本誰一人も金メダルを獲得出来なかったのが正直悔しかったです。この大会で色々な事を学び、いくつかの課題を見出して、今後の試合に繋げるようにしたいです。

私は世界ろう者卓球選手権大会をこの目で見て、一生忘れられない思い出に残りました。

### 【女子選手：稲葉 千寿子（愛知）】

#### 1) 参加目標・目的に対する達成度・評価と今後の課題

##### ○参加目標

世界のレベルに自分が持っている技術でどこまで通用出来るか試す為。チームワークを大切に、日本選手団が入賞出来るようサポートし合う事。

##### ○目的に対する達成度と評価

団体戦で当たった中国の選手に負けたけど、個人戦でその人にリベンジ出来た事が自分にとって大きな自信に繋がった。最後まで諦めない事がすごく良かったと思います。

また、チームワークのまとまりも良かったのでベストな状態で試合に臨めた。

##### ○今後の課題

自分の苦手な所を克服し、更なる挑戦に立ち向かう事。ツッツキでの攻撃をもっと工夫して、変化球も出すように

する。

## 2) 反省・まとめなど

三年前のデフリンピックに比べ世界のレベルが一段に上がってきているので油断は出来なかった。ヨーロッパの選手はカット打ちがあまり上手ではなく、また、アンチラバーを知らない人が多く慣れてないせいもあって私にとって有利でした。

自分から逃げないで真っ直ぐ挑戦してこそ、最後にこの結果が出て良かったと思います。

### 【女子選手：大久保 舞（東京）】

#### 1) 参加目標・目的に対する達成度・評価と今後の課題

##### ○参加目標・目的に対する評価

初めての国際大会で緊張感に負けずに、自分の得意なカットでプレーをすることが目標でした。長遠征なので、チームワークを大事にしたいと思っていました。

本実戦では緊張のあまり足が動けず、とにかくプレーは後にして、まずは足を動かすこととアドバイスをいただき、常に意識して自分らしいプレーをすることができたかなと思います。

##### ○今後の課題

色々なタイプの人と練習して、色々なタイプの人に対する戦い方を身に付けていかなければならないと思いました。選手の名前だけで怖がらず、もっと自分に自信をもち、精神面でも鍛えたいと思いました。

## 2) 反省・まとめなど

コーチが足りないときがあり、急なときに自分もコーチングができるよう、知識を高めなければならぬと感じました。チームワークはとても良かったと思います。協調の重要性を高めるいい機会となりました。

### 【女子選手：上田 萌（東京）】

#### 1) 参加目標・目的に対する達成度・評価と今後の課題

##### ○参加目標

どんな相手でも常に自分らしいプレーで試合に臨められるようにする事。

○今後の課題

技術だけでなく体力面、精神面も鍛えられるようにしていきたい。

2) 反省・まとめなど

今回、初めて世界ろう者卓球選手権大会に出場させて頂き、技術面だけでなく、精神面、体力面、そして生活面でも学ぶ事が多く、とても貴重な経験となりました。

団体戦とダブルスでは惜しくも金メダルをとる事ができませんでしたでしたが内容はよかったです。シングルスでは約1週間くらい試合が続いて、疲れがたまっただけか体が思うように動かず、悔いの残る結果となりました。自分の体力の無さを痛感しました。

試合以外に生活面でも1番年下の自分が周りに気を配って行動しなければならないのに、自分の事でいっぱい先輩たちを頼りにしすぎている部分がありました。だから試合以外でももっと責任のある行動が出来るようにならないといけないと思いました。

この大会に出場した事をきっかけに、世界のレベルがどれくらいなのか分かったし、自分のこれからの課題が更にわかったので、今回の反省を来年のデフリンピックに活かせるよう頑張りたいです。日本から応援して下さいの皆様、本当にありがとうございました。